

## 教育活動効果を高める広報・情報交換活動の工夫・開発

### ー 家庭・地域の教育力を引き出し高めるデジタルネットワークの活用 ー

秋田県秋田市立金足東小学校 校長 田口 隆

E-mail:Khg-es4@edu.city.akita.akita.jp

http://www.edu.city.akita.akita.jp/~khg-s/

キーワード：小学校、広報・情報交換活動、学校理解、学校Web、双方向コミュニケーション

#### 1. はじめに

当校では、地域や学校の特性を生かした環境学習を柱に、ICTを積極的に活用しながら教育活動の在り方を工夫・開発してきた。こうした取組を進める中、“子供たちの学び”や“教師の支援活動”を多面的・具体的に理解していただいたり、“保護者や地域社会の人々の願い”をタイムリーかつ具体的にとらえて教育活動に生かしたりしていくことの重要性と、このための広報・情報交換活動を促進するデジタルネットワーク活用の有効性が明らかになってきた。

以下、デジタルネットワークを活用した広報・情報交換活動と、従来からの印刷メディアや実際の学校公開等による広報・情報交換活動との相互補完の在り方を工夫・開発しながら「ふるさとの明日をたくましく切り拓く人材」を育てる当校の取組を紹介していく（昨年の成果発表会以降の取組を中心として）。

#### 2. 取組の概要

##### 2. 1 対象

###### （1）対象とする教育活動

1年生から6年生までの教育課程に係る活動はもちろん、課外における活動等（伝統芸能の発表会、スポーツ少年団の練習・試合等）も対象としている。

###### （2）広報・情報交換活動の対象

①児童・保護者 ②地域組織の役員（同窓会、振興会、民生児童委員会、社会福祉協議会、体育協会、防犯協会、金足っ子育て隊、交通安全協会、消防団 等） ③学区住民 ④金足東小学校の教育活動に関心のある人々 ⑤他の学校（外国も含めて）

##### 2. 2 実施事項概要

###### （1）家庭や地域の教育力を引き出し高めたりするデジタルネットワークを活用した広報活動・情報交換活動の工夫・開発

①Webの工夫・開発 …… 学校Webに掲載している以下のコンテンツの内容を工夫・開発してきた。

- 学校情報；学校経営の重点、学校要覧、校報、学級だより、保健だより、PTA会報 等
- 特色ある教育活動；当校の特色ある教育活動における子供たちの活動の様子及びそれに関する解説・アグリ活動、イーストピア学習、フレンドピア学習、Hello 活動（英語活動）、黒川番楽、NIE 等
- 学年の部屋；今こんなことががんばっているんだよ（「学びの足跡」（デジタルポートフォリオ）が基盤）
- 研究；環境学習を柱とした当校の特色ある教育実践に関する報告等（当校教育の方向性や存在理由・価値）
- 今日の金足東小；毎日更新、子供たちの活動や学校の様子（英訳文併記、国際交流相手校の理解の促進）

###### ②双方向コミュニケーションの工夫・開発

- ・ 児童一人一人のデジタルポートフォリオ（教師用、児童用）の作成と活用、Eメールや携帯メールの活用



写真1 教育活動の重点をビジュアルで紹介（Web掲載の学校要覧抜粋）



写真2 「デジタル栽培マニュアル（ヒメノモチ編）」の画面例

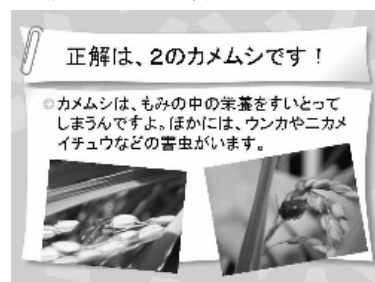


写真3 アグリ活動における体験を踏まえた作品の画面例

###### （2）デジタルネットワークを活用した広報・情報交換活動と、従来からのメディア（印刷メディア、ビデオテープ等）による情報提供、学校公開との相互補完の在り方の工夫・開発

①校報・学級だより・保健だよりのWeb掲載 …… 全戸配付までの時間的な制約の克服、他学区在住の親戚等との話題とすることで教育活動の内容や進め方に対する理解を促進、

②通知票（写真＋コメント） …… 活動や成長の様子を具体的にとらえる、面談やその他の情報との相互補完



写真6 学習発表会の様子（ふるさと先生の活躍もわかるように）

- (1) 教育計画を踏まえ、校内の運営組織を生かしながら、効率的に必要なデータ（活動の様子、特徴的な出来事 等）を収集・データベース化し、目的に応じて活用している。こうすることで、We b 更新も分掌組織を生かして日常的に実施できるようになっている。
- (2) 教師のリテラシーをアップするための研修は、目的や必要に応じて随時行うようにしている。

- (1) “子供たち相互”や“教師と子供”のかかわりの中で、子供たちが何を考え、どう感じているのか、活動の積み重ねに伴ってどう成長しているのか等を、具体的にとらえられる内容や表現とするようにしている。
- (2) ビジュアルで、わかりやすい表現に心がけるとともに、教育活動を支える基本的な考え方や方向性については、詳しくわかるような記述資料もきちんと掲載しておくようにする。
- (3) デジカメやビデオカメラの台数を増やし、子供たち（教師）がいつでもどこでも学習（支援活動）に活用してデータを取得できるようにしておく。
- (4) 取得したデータをデジタルネットワークを介して活用しながら学習を進めるようにしている。また、NIE活動を積極的に推進し、根拠をはっきりもって考えたり、新聞形式で表現したりする活動の在り方を工夫している。これらは、子供たち（教師）のメディアリテラシーを日常的に高めることをねらったことである。

- (1) 実践情報の公開を前提として授業を構想・展開することが定着してきた。このため、学習過程の「どこで」「どのようなメディア形態データを」「どう」取得したらよいのかの見極めがスムーズになり、ゆとりをもってデータを取得できるようになってきた。また、これらのデータをデジタルポートフォリオとして蓄積し、授業改善に生かすことができるようになってきた（授業力の向上）。
- (2) 保護者や地域社会の方々との効果的な連携に立つて特色ある教育活動を構想したり展開したりする資質・能力が高まってきた。

- (1) 学校における教育活動の内容や意味を具体的に把握できるようになってきた。また、教師の取組への理解が深まるとともに、家庭における子供たちとのかかわりの内容や質、学校への協力の内容や質が高まってきた。
- (2) 教育活動の「どこに」「どう」かかわればよいのかがわかり、教育活動への参加機会が増えた（地域社会の方々）。

– 101 –